

事業所名： グループホーム ぼらん室根

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900140		
法人名	NPO法人 なごみ		
事業所名	グループホーム ぼらん室根		
所在地	〒029-1202 岩手県一関市室根町折壁字兵沢114-1		
自己評価作成日	令和7年10月12日	評価結果市町村受理日	令和8年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは開所して間もなく丸15年が経ちます。長年勤務の職員が多く、利用者様方だけではなくご家族様との信頼関係も構築できており、各サービスにも概ね満足いただいているのではないかと感じています。職員は法人理念とホーム独自の理念を常に心掛け、今後もさらに質の良いサービスに繋がられるよう、また利用者様方とご家族様にとって安全安心な生活を送ることができるよう支援して参りたいと思います。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年11月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所後15年目となる事業所は、山林や農地などに囲まれた自然豊かな環境にある。管理者と介護支援専門員の介護業務経験が長く、利用者・家族の意向を十分に汲み取り、個々の生活歴や家族関係、得意なこと等を大切にアセスメントが行われ、本人の強みを生かしたケアプランが作成されている。また、6項目の法人理念と「1日1日を笑顔で大切に」という事業所の理念に基づいて日々のサービスが提供されており、そのことが、職員・本人・家族の信頼関係にもつながっている。近所の方からの野菜のお裾分け、草刈り等の協力があり、有償ボランティアによる見守りも行われている。環境面では、廊下や共有スペース、各居室いずれもゆったりと十分な広さが確保され、大きな窓からは各所に自然光が採り入れられており、利用者は季節ごとの外の景色を楽しむことができる。各居室にエアコンと換気扇が設置され、食事やおやつは、冷凍食品や市販菓子も使用するが、ほとんどが手作りで提供しており、利用者のケアが丁寧に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・法人理念の他に事業所理念もネームプレートの裏に表記しており、毎日のショートミーティングや月例の全体ミーティングの際に唱和し、職員全員で意識付けしながら実践に努めている。	6項目の法人理念に加えて、「1日1日を笑顔で大切に」という事業所の理念を掲げている。職員はミーティングでの唱和等を通して、常にこの理念を念頭に置きながら日々の介護にあたっている。理念はアセスメントやケアプランにも反映され、職員が個々の利用者を深く理解してサービス提供を行うことにもつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	・ご近所の方々とは日頃の挨拶を初め、草刈りなどの支援をいただき交流し、地域の方にはボランティアで草取りにも協力をいただき、つながりを大切にしている。また利用者様が散歩の際に、バス停の掃き掃除等を行なっている。	コロナ禍以降、地域行事への参加が難しくなっているが、自治会には継続して加入している。近所の方とはやり取りがあり、野菜や海産物の差し入れや、草刈りの協力が得られている。有償ボランティア2名の登録があり、利用者の見守りや話し相手をしていただいていることも地域との接点となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・コロナ禍後は、徐々に研修などへの参加を再開しているものの、ホームから地域に向けての発信には至っていない為、今後どのような形で発信につなげて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・感染症の流行を恐れ、未だに書面開催としており、中々地域の方々のご意見を伺えていない。	コロナ禍以降、2か月に1回の書面開催を継続している。参集者は、利用者と事業所職員で、利用者の状況と日々の活動内容、身体拘束に該当する事例の有無等を報告している。	運営推進会議を参集形式とし、事業所の課題についても地域と共有していくことが望めます。自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員等を改めてメンバーに加えて、さらに地域の協力が得られるような事業所運営を進めていくことが期待されます。

事業所名 : グループホーム ぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・介護保健課へ定期的に足を運び、各書類の届け出や入退去など利用者様に関する相談や災害情報の連絡をいただいている。	介護認定の申請代行など、主に一人ひとりの利用者の手続等の際に行政の窓口に出向いている。また、生活保護の利用者もあることから担当ケースワーカーとの関わりがある。大雨等の災害時には、事業所に対して行政からの安否確認が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束防止委員会を設置し、ホーム内で定期的に話し合いを設けているが、現在外部研修には中々参加できていない。	事業所として年2回身体拘束防止委員会を開催している。現在、身体拘束に該当する利用者はない。また、ミーティングの際に研修を行い、スピーチロック等も含めて利用者に対する不適切な関わりがないよう、職員間で声をかけあっている。玄関の施錠は夜間のみで、センサーマットの使用者はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・ホーム内での勉強会を設け、虐待が見過ごされることがないように職員一人ひとり、心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・日常生活自立支援事業や成年後見制度について、個々の必要性を考慮し、必要時に備えミーティングの際に勉強会を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約締結や解約の際には、ご家族の理解を得られるよう十分な説明を行なっている。また不安や問題点が無いか来訪時に確認し、その都度対応している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・利用者様方の日頃の会話や態度から意見や要望を受け止めている。ご家族にも来訪の際、意見要望を伺えるよう、声掛けをしている。ケアプランに反映させ、毎月のお便り通信欄でもお知らせしている。	利用者の意向は、日常生活の中で随時聴き取りをしている。家族の意向は、受診同行や利用料の支払い等で来訪された際に確認している。施設側から家族に対しては、本人の写真(ベストショット)を貼ったシートに「最近の様子」「今後の予定」等を記入し、日頃の様子を伝えており、好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・代表者はアンケートで職員の要望を聞く機会を設けている。管理者は、常に現場にいるため、日常から職員とコミュニケーションをとり、意見等を聴いている。	管理者が日々、個々の職員からの意見等に耳を傾けている。利用者の支援に関する提案や、物品購入等の希望が聞かれ、随時対応している。年度末には自己評価表とアンケート(職員の希望等を記載可能)を各職員が記入し法人本部が取りまとめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・各家庭事情や子育て中の職員の要望を受け入れ、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・各々がスキルアップを目指せるよう、資格取得の際の費用や研修代を法人で負担している。数は多くないが、研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・コロナ禍以降、実際の交流の機会は減っているが、介護支援専門員更新研修で交流があり、その中身を職員にも伝達しサービスの質を高める事ができるよう取り組んでいる。		

事業所名 : グループホーム ぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・入居前面談で、ご本人にお話を伺い入居前に不安事がないかを伺い、特に入居後30日間の不安や困りごとまたは要望を伺い安心して生活できるよう対応して、ご本人との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・問い合わせの段階から困りごとなどを傾聴し、入居後もご本人の様子などを細かくお伝えし、ご要望なども伺い、ホームでの安心な生活を継続していただける様、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・入居前、ご本人・ご家族・ホームとで十分な話し合いをもち、見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・一方的な介護にならない様ご本人ができることをその場で伺いながら、進めている。お掃除・洗濯物干したたみ方・キッチンでの片付け等々、お互いに感謝を伝えながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・入居後もご家族との関係性が薄くならぬよう、なるべくご本人とのかかわりをもっていただきたく、定期受診は基本的にご家族対応をお願いし、お互い支えあう関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・利用者様方の全員ではないが、ご家族以外にご近所の方やお知り合いの方々が面会に来訪されたり、外出やご自宅への外泊をしたりと、これまでの馴染みを大切にできるよう支援に努めている。	家族が病院受診や利用料支払いのため月1回は施設を訪れている。コロナ禍以降、家族以外の馴染みの方との関わりは減っているが、機会があれば対応している。これまでの馴染みとして、毎週の訪問看護師及び毎月の歯科衛生士の訪問による口腔指導があり、散髪の方も3か月に1回は施設を訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・他利用者様をご家族と思い込んでいる利用者様には、否定せずお互い良好な関係を保てるよう支援している。さらに耳が遠い方やコミュニケーションが難しい利用者様やには、職員が仲介し孤立しない様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・入院または他施設に転居後も、可能であればその後の情報を入手しているが、契約終了後はほとんど関係性は保てていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ご本人の普段の生活の中から希望や意向などを汲み取り、安全安心かつ楽しい思いをもって生活できるような支援に努めている。	言葉でのやりとりが可能な方が6名おり、言葉でのコミュニケーションが難しい方はジェスチャーや観察等から本人の意向を汲み取るよう配慮している。本人の意向や強みの把握には、生活歴を参考にすることもある。家庭農園や編み物・縫物、掃除等、本人の得意なことをケアプランに生かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・ご家族や以前利用していたサービス事業所からの情報提供の他、ご本人からお話を伺い 若い頃や入居直前までの生活把握に努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・日々、お一人おひとり多少の変化がある為、生活記録や引継ぎ等の情報も取り入れながら、毎日の生活状況を把握し、支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・3ヶ月毎のモニタリングは担当制にして、心身の状態やケアの変化を記入している。課題とケアについても、ミーティングや申し送り等でも、その都度気づきや自立支援のケア・介護等の工夫について話し合いをもち、個別支援の介護計画に反映している。	入居時は管理者、ケアマネジャーが本人・家族と面談し暫定プランを作成している。入居1か月を目途に各職員からの気づきをまとめてプランを修正し、その後、モニタリングは3か月後に担当職員が行ったうえで、ケアマネジャーが評価をしている。プランの見直しは6か月後で、カンファレンスは2か月に1回実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・日々の様子やケア方法、利用者様の要望や思いを個別記録や連絡ノートに記入し、情報を共有している。また毎日のショートミーティングの際にも気づきや工夫を話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・急な体調不良の際の受診やご家族の都合による受診依頼も、その都度臨機応変に対応している。ご高齢のご家族もおり、外出支援や買い物等も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・ご家族やご本人から話を伺い、地域資源の把握に努め、継続できるように支援してしている。またボランティアの受け入れや地元美容師によるホームでの散髪も継続し、関係性を築いている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ぼらん室根

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・ご家族や利用者様の希望を伺いながら、入居前のかかりつけ医との関係性を大切に、継続できるように支援している。さらに職員も受診対応することで顔の見える関係性を築き、時には電話での体調報告も行なっている。	入居前からのかかりつけ医を家族同伴で受診することを原則としている。緊急時や、事情により家族が対応できない場合には職員が対応している。医師への説明は担当者が紙に書いて家族に渡すようにしている。訪問看護師が週1回、訪問歯科医が月1回施設を訪れ、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・週に1度の訪問看護師来訪の際には、利用者様方の心身の変化等を伝え、適切なケア方法の指示、及び必要に応じ受診するなど、連携して利用者様の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院の際、病院側にこれまでのホームでの生活情報の提供を行ない、その後ご本人の容体など病院やご家族と情報共有及び相談し、早期退院に向けての支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・契約締結時に看取りの指針の説明を行ない、ご本人及びご家族の意向の確認を行なうように努めている。体調の変化があった場合には、すぐにご家族に報告し再度、意向を確認し医療機関とも連携できるよう対応している。	看取りの指針を整備しており、ぎりぎりまで終末期ケアを行った事例がある。家族には要介護3以上となった際に、特別養護老人ホーム等への入居申込について相談しており、入居時にも予め説明を行っている。地域の医療体制自体の課題もあり、完全な看取り体制には至っていないが、可能な限り利用者・家族の意向に応えられるよう努力している。	

事業所名 : グループホーム ぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・外部の研修には参加できていないが、勉強会やミーティングで内部研修を行ない、急変に備えての対応を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・火災、水害等の災害に備えた訓練を消防署員立ち合いのもと、定期的に訓練を行なっている。その際、地域の方にも呼びかけをし、可能な場合には参加にご協力をいただいている。	事業所の所在地は、ハザードマップ上、土砂災害の恐れがある区域とされている。火災想定避難訓練を年2回実施する他、水害想定総合訓練も行っている。この中で夜間を想定した訓練も取り入れている。法人本部の手配で自家発電機が設置され、被災した場合にも数日間は電気の供給が可能であり、食糧も3日分を備蓄している。	事業所は1階建てで掃き出し窓が多く、現在は車いす利用者もないため、災害の種類や出火場所によって避難経路を柔軟に確保できますが、共有スペース外のウッドデッキに腐敗があります。災害時・平時いずれにおいても、リスクマネジメントの観点から早期の修繕が必要と考えられます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・職員は常に利用者様方個人の理解に努め、尊重した言葉遣いを心掛けて支援している。また毎日のショートミーティングなどでもプライバシーに配慮しインシヤルで報告をしあい、秘密保持に努めている。	アセスメントの結果、本人ができることは自分でできるように職員間の対応を統一することで、一人ひとりの自尊心を傷つけないよう配慮している。例えば、入浴時は見守りと一部介助中心の方、トイレは声がけのみの方など、一人ひとりに合った対応や言葉かけを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・日頃の何気ない言動や表情などから、その思いを汲み入れる様に努め、残した記録を全職員で情報共有しており、利用者様ご本人が自己決定できる様な声掛けを心掛けている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・一日の全体的な大まかな流れはあるものの、個人のペースや体調を考慮しながら、思い思いに過ごしていただける様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・個々の生活習慣のこだわりを大切に、ご自分で衣類を選んで入浴へ向かったり、起床時の身支度ではご自身を鏡で見ながら整容していただける様、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・お誕生日にはご本人からまえもって希望を伺い、お好みのメニューを提供したり、外食する利用者様もいて喜んでいただいている。食事の配膳は難しいが、下膳や片付けを職員と一緒にしない、その際にお好きな料理などの会話も行なっている。	介護リーダーが献立を作成し、調理員が買い物と調理を行い、食事とおやつは基本的にすべて手作りとしている。誕生日にはケーキ、正月はおせち、敬老会には仕出し弁当で刺身を提供して喜ばれている。利用者からは、ラーメン、はっとう、そばなどが人気で、誕生日には外食もできる。利用は、下膳や食器のすすぎ等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・毎食の食事量及び水分量をチェックして記録に残し、職員間で情報共有しており、食事量や水分量の少ない方には、栄養補助食品やお好みの飲み物などを提供している。刻みやペースト状での提供も行なっており、個々に合わせた食事形態を工夫し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・毎食後、必ず全員に口腔ケアを促し、行なっている。お一人で難しい方には、介助で行ない口腔内の清潔保持に努めている。さらに月に一度、歯科衛生士による口腔ケアを行ない、必要に応じて歯科医の治療を受けている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ぼらん室根

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・ほとんどの方が紙パンツを使用しているが、排泄チェック表を活用し、個々の尿意や排泄のタイミングを把握し声掛けまたは誘導を行ない排泄を促し、なるべくトイレでの排泄にできるよう支援している。	チェックリストを使用して、さりげなくトイレの誘導や声掛けを行っている。現在、自立の方が1名、リハビリパンツ使用者が8名で、オムツ使用者はいない。本人の希望で夜間のみポータブルトイレを使用する方が1名ある。入居後、服薬の調整や声掛けで排泄が改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・個々の排便周期を把握し、排泄チェック表を活用しながら、毎日の牛乳提供や服薬を行なっている。また運動不足による便秘対策として、毎日、無理のない範囲での軽体操や歩行を行ない、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている。	・自ら入浴希望する方はいない為、職員からの声掛けにて平均週三回程度の支援を行なっている。気がすすまない時や体調不良がみられる場合などは、無理せず個々に沿った対応を行なっている。また入浴剤を活用し、心身ともにリラックスし気持ちよく入浴していただける様、支援している。	週2、3回午前中の中の入浴としており、1日あたりの入浴者は3名程度。個浴で森林の香りの入浴剤を使用し、おしゃべりをしながらゆったりと入浴ができる。一般浴のみだが、車いす使用者でも介助により入浴可能なスペースと手すり等が設置されている。異性介助を拒否する方があれば調整可能だが、現在は該当者はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・その日の体調や活動に合わせた休息の声掛けを行なっている。季節に応じた室温や掛け物等の調整を行ない、寝具や寝間着などの清潔に留意し、また居室内の明るさにも配慮し、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬の説明書などを活用し、病状に合った服薬をしている事を確認している。また病状に変化が見られた場合には、早急に医療機関に報告相談し指示を仰いでいる。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・個々の特技や生活歴に合わせ残存能力を引き出しながら、普段無理のない程度のお手伝いや活動を行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・お花見など季節のドライブやご家族との外出・外泊など、なるべくホーム内の生活のみにならないよう支援に努めている。	季節に応じて周辺の散歩や外気浴をしている。通院時に家族と外出して来る方、ケアプランに位置づけて定期的に外泊する方など、家族との関わりも重視している。事業所として自動車2台を所有しており、分乗してお花見やつつじ狩りに出かけている。誕生日には外食で好きなものを食べるのが利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・現金(お小遣い)は基本的にホームでおあずかりして管理している。外出時には好きな飲み物を購入するなど、ご本人の希望で使用もして。ご本人から現金の行方について心配な訴えがある場合には、職員と一緒にご本人の出納帳を確認し、安心し納得している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・心配事や電話を希望された際には、ご家族に電話をいれ会話することで安心されている。またご本人から気持ちを綴った手紙を預り、ご家族にお渡しすることもあった。ご本人とご家族の橋渡しができるよう今後も支援に努めたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・毎日、ホーム内全体の床及び手すりの掃除を行っており、清潔保持と整理整頓を心掛け利用者様のストレスがかからないよう配慮している。季節折々の掲示物などで季節感を取り入れている。	事業所は平屋で、玄関やホールなどの共有空間には、季節や行事・イベントに合わせた手作りの絵や作品等が飾られている。全体的にゆったりとした構造で、廊下の幅等も十分確保されており、利用者はホールのダイニングテーブルでテレビやYouTubeを一緒に楽しんだり、思い思いに過ごしている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・共有空間でも、お一人で日向ぼっこやうたた寝をしたり、他にその時々のお気持ちに合う同士で集まってボール遊びなどレク活動をしてみたり、思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・居室にはご自宅で長年愛用していたものやご家族が準備したものを置いており、ご自分で手に取り使用したり、ご自宅と同じような気持ちで過ごしていただけるよう工夫している。	エアコン、換気扇、クローゼット、洗面台が各居室に備え付けられており、それぞれに使い慣れた馴染みのものを持ち込むことができる。テレビや衣装ケース、家族の写真や位牌、ペット代わりのぬいぐるみを置いている方もある。大きな窓から外が眺められ、居室のスペースも広く、掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・なるべく自立した生活が送れるよう、居室入り口にはお名前の表示を行なっている。夜間は居室や廊下に足元灯を設置したり、トイレの扉を開放するなどし安全面にも配慮し工夫している。		